

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22830112

研究課題名（和文）ヴィリー・ブランドの東方政策と冷戦の終焉に関する研究

研究課題名（英文）Willy Brant' s Ostpolitik and the end of the Cold War

研究代表者

妹尾 哲志（SEN00 TETSUJI）

同志社大学・政策学部・講師

研究者番号：50580776

研究成果の概要（和文）：本研究では、1969年にドイツ連邦共和国（西ドイツ）の首相となるヴィリー・ブランドの東方政策（Ostpolitik）について、ヨーロッパにおける冷戦の終焉との関係に着目した研究を行った。二年間の研究期間に、単著と共著の刊行、雑誌論文、国際セミナーを含む学会報告などの研究成果を得た。そこでは西ドイツ政府が、東方政策の成果を、1975年のヘルシンキ最終文書署名に至るヨーロッパ安全保障会議（CSCE）の開催によって「多国間化」すべく、積極的に働きかけていた点を明らかにし、それが冷戦の終焉にいかなる影響を与えたのかについての考察を行った。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to consider how the Ostpolitik of Willy Brandt contributed to ending of the Cold War in Europe and the German unification in 1990. The Federal Government tried to confirm the results of bilateral Ostpolitik in the late 1960s and the 1970s in the multilateral framework of the Conference on Security and Cooperation in Europe (CSCE), which could make a certain contribution to ending the Cold War in the long term.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	920,000	276,000	1,196,000
2011年度	840,000	252,000	1,092,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,760,000	528,000	2,288,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：国際政治、ドイツ外交、冷戦史、西洋史

1. 研究開始当初の背景

1960年代から70年代のブランドの「東方政策」については、それがドイツ外交における重要な転機であったことから、既に多くの研究が発表されている。特に1990年以降は、冷戦構造の崩壊と東西ドイツ統一という新たな事実に対していかに位置づけら

れるか、その評価は揺れている。すなわち、ソ連や東欧諸国との関係改善を図った東方政策が、果たしてヨーロッパにおける冷戦の終焉やドイツ統一にいかなる寄与をなしたのが重要な論点となっているのである。

2. 研究の目的

そこで本研究では二カ年に渡りブラントの東方政策に関して次の四点に注目して分析を試みた。

- ・東方政策の立役者バール (Egon Bahr) の「接近による変化」構想と、分断克服のための長期的戦略たる欧州安全保障体制構想の分析
- ・バール構想の実現過程としてのブラント政権の東方政策について、主にソ連、ポーランド、東ドイツとの交渉を中心に実証研究
- ・ソ連・東欧諸国との交渉と並行した西側諸国との意見調整の詳細な検討
- ・西ドイツ国内における東方政策をめぐる与野党の対立と並行する国際交渉との相互作用の分析

以上の四点から分析することで、ブラントの東方政策がヨーロッパの東西冷戦全体やヨーロッパにおけるドイツ外交史研究に対して持つ意義を明らかにし、さらには西ドイツ国内の政治情勢との相互作用に着目することで、実証研究にとどまらない理論的意義を探った。

3. 研究の方法

本研究では、ブラントの東方政策と冷戦の終焉の関係について、30年公開原則で利用可能になって間もないドイツの政府機関の外交文書や未刊行文書等を用いる外交史的な研究方法を軸として、先に述べた四点から多角的に研究した。2011年3月及び8-9月の二回に渡り訪れた文書館は以下のとおりである。

- ・ドイツ・ボンのフリードリッヒ・エーベルト財団の文書館に所蔵されているブラントやバール等のSPDの代表的な政治家の個人文書や未刊行史料
- ・コブレンツの連邦文書館に保管されている西ドイツ歴代政権に関わった政治家の個人文書や東方政策に関連する省庁の文書
- ・ボン近郊のアデナウアー財団の文書館にあるCDUの主要政治家の個人文書や党議事録
- ・ベルリンのドイツ外務省所蔵の未刊行外交文書

以上の史料調査に加え、現地にて開催されたセミナーにも参加し、そこでドイツ外交に関する専門家らとの意見交換も行った。そして日本国際政治学会をはじめとした国内外の学会で研究成果を報告し、さらには雑誌論文や図書によってその成果を発信した。

4. 研究成果

本研究で得られた研究成果としては、広範

な一次史料や先行研究を踏まえ、東方政策を構想から政策の実施段階まで詳細に分析した点をあげることができる。東方政策構想の核となるバールの構想や、ソ連や東ドイツとの交渉を検討したことと併せて、とりわけ米英仏を中心とした西側諸国との意見調整について、1970年のモスクワ条約締結や1975年のヘルシンキ最終文書に至る過程について詳細に検討した。これは、従来の東方政策研究では不十分だった西側との関係について、東側との交渉に目配りしつつ外交史的アプローチから包括的に考察した点において、この分野における研究に貢献できると考えられる。そして外交交渉と西ドイツ国内政治の相互作用についても分析を加えることで、外交と内政の関係についての国際関係論における理論的示唆を得ることができた。今後は、戦後西ドイツにおけるブラント政権期の外交政策の位置づけに関してさらに詳細に検討するためにも、その前のブラントが外相を務めた大連立政権期(1966-69年)や、ブラントを後継したシュミット(Helmut Schmidt)政権期(1974-82年)の研究を進めていくことを予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

1. 妹尾哲志、「ブラント政権の東方政策と1972年のドイツ連邦議会選挙」、『同志社政策研究』第5号、39-61頁、2011年(査読有)。
2. 妹尾哲志、「書評：山本健『同盟外交の力学—ヨーロッパ・デタントの国際政治史 1968-1972』」、『ゲシヒテ』第4号、79-82頁、2011年(査読有)。
3. 妹尾哲志、「ブラントの東方政策における西側との関係—対ソ交渉過程における米英仏との意見調整、1969-1970」、『アゴラ(天理大学地域文化研究センター紀要)』第8号、1-36頁、2011年(査読有)。

[学会発表] (計9件)

1. 妹尾哲志、「『戦後西ドイツ外交の分水嶺—東方政策と分断克服の戦略、1963～1975年』(晃洋書房、2011年)に関して」、第34回関西政治史研究会、2012年1月28日、同志社大学
2. 妹尾哲志、「ブラント政権の東方政策と独米関係、1969～1972年」、日本国際政治学会 2011年度研究大会、2011年11月13日、つくば国際会議場

3. Tetsuji Senoo, 「The border issues of Germany during the Cold War: the meanings of Willy Brandt's Ostpolitik」、Intellectual Exchange Conference and Seminar supported by the Japan Foundation, "The Meaning of Borders in the Age of Globalization: Europe and Asia", 2011年9月13日、Subotica (Serbia).

〔図書〕(計3件)

1. 妹尾哲志、『戦後西ドイツ外交の分水嶺—東方政策と分断克服の戦略、1963～1975年』、晃洋書房、全296頁、2011年.
2. 妹尾哲志、『『全欧』と『西欧』のあいだ—ブランドの東方政策とヨーロッパ統合問題』、遠藤乾・板橋拓己[編]『複数のヨーロッパ—欧州統合史のフロンティア』、北海道大学出版会、265-291頁、2011年.
3. Tetsuji Senoo, *Ein Irrweg zur deutschen Einheit?: Egon Bahrs Konzeptionen, die Ostpolitik und die KSZE 1963-1975*, Peter Lang, Frankfurt am Main, 415 pp., 2010.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

妹尾 哲志 (SEN00 TETSUJI)
同志社大学・政策学部・講師
研究者番号：50580776